



下野市立祇園小学校 令和7年度 学校だより 第5号

ぎおんばら

チャレンジ(挑戦)する学校

目指す児童像

- 健康で明るい子(たくましく)
- 進んで学ぶ子(かしこく)
- 心の豊かな子(なかよく)

令和7年9月16日発行 校長 高山 靖子

【特集】～祇園小学校児童の学力・学習状況～

今回は、4月17日に実施された、「全国学力・学習状況調査」(6年生対象)と、県版の学力調査「とちぎっ子学習状況調査」(4・5年生対象)の結果をお知らせします。

【記号の見方】栃木県・全国平均正答率(%)との比較

- ☆:大変大きく上回っている(10ポイント以上)
- :同じ(±1ポイント未満)
- ◎:大きく上回っている(5ポイント以上10ポイント未満)
- ▽:下回っている(1ポイント以上5ポイント未満)
- :上回っている(1ポイント以上5ポイント未満)
- ▼:大きく下回っている(5ポイント以上10ポイント未満)

6年生「全国学力・学習状況調査」の結果

	国語		算数		理科	
	県との比較	全国との比較	県との比較	全国との比較	県との比較	全国との比較
教科全体	☆	☆	☆	☆	☆	☆
知識技能	◎	◎	☆	☆	☆	☆
思考判断表現	☆	☆	☆	☆	☆	☆

【領域別】※県と全国との比較の結果は同様だったため、まとめて表記

国語		算数		理科	
言葉の特徴や使い方にに関する事項	◎	数と計算	☆	エネルギーを柱とする領域	☆
情報の扱い方にに関する事項	◎	図形	☆	粒子を柱とする領域	☆
我が国の言語文化に関する事項	◎	測定	☆	生命を柱とする領域	☆
話すこと・聞くこと	☆	変化と関係	☆	地球を柱とする領域	☆
書くこと	☆	データの活用	☆		
読むこと	☆				

3教科全て、県平均及び全国平均を大幅に上回っています。教科別結果については以下のとおりです。

《国語》・思考力、判断力、表現力をみる問題で、「自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える力」や、「図表などを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力」、「時間的な順序や事柄の順序等を考えながら内容の大体を捉える力」が十分についていることがわかります。

《算数》・知識、技能をみる問題で、小数の加法で共通する単位を捉えることや、異分母の分数の加法の計算の仕方、棒グラフの読み取り、角の大きさの理解など、基礎的・基本的事項が習得できています。
・問題を解決するために必要な数量を見だし数量の求め方を記述したり、図形の面積の求め方を式や言葉で記述したりする、全国、県共に正答率の低い問題でも、高い正答率となっています。

《理科》・全ての設問で、全国並びに県平均正答率を大きく上回っています。

・収集した情報や実験・観察の結果、また、与えられた条件をもとに、問題に対する自分の考えをもち、その内容を記述する力に課題がみられます。

【児童質問紙から】

・県平均と比較して、79問中約7割の質問で、望ましい回答が多くありました。特に、「学校に行くのが楽しいと思うか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」「学級生活をよりよくするために話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めているか」等の質問で望ましい回答が県平均を上回っていました。また、家庭での学習時間、読書する時間、読書が好き、家庭の蔵書数は県平均を大きく上回っていました。

・国語、算数、理科全てにおいて、教科の学習が「得意である」「好きである」「授業の内容がよく分かる」「授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思う」との回答が県平均を大きく上回っていました。

・県平均と比較して下回っていたのは「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「分からないことや詳しく知りたいことがあったとき自分で学び方を考え工夫することができているか」「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり生かしたり出来ると思うか」等でした。

4年生「とちぎっ子学習状況調査」の結果

	国語	算数	理科
教科全体	○	◎	◎
知識技能	▽	◎	◎
思考判断表現	◎	◎	◎

どの教科も、県平均を上回っています。さらに算数、理科は全領域で上回っていますが、国語は領域によってばらつきが見られました。「書くこと」「読むこと」では大きく上回っていますが、「漢字を正しく書く」「主述の関係をとらえる」「国語辞典の使い方の理解」「相手に伝えるように理由を挙げて考えを話す」ことにおいて課題が見られました。

【領域別】

国語	
言葉の特徴や使い方にに関する事項	▽
情報の扱い方にに関する事項	▼
我が国の言語文化に関する事項	出題なし
話すこと・聞くこと	▽
書くこと	☆
読むこと	☆

算数	
数と計算	◎
図形	◎
測定	◎
データの活用	☆

理科	
エネルギーを柱とする領域	○
粒子を柱とする領域	◎
生命を柱とする領域	○
地球を柱とする領域	☆

【児童質問紙から】

県平均と比較して肯定的な回答が上回っていたのは、「勉強していて、おもしろい、楽しい、不思議だな、なぜだろうと感じることがある」「学習して身につけたことは将来役に立つと思う」「毎日が充実していると感じている」等で、前向きに学校生活を送れていることがわかります。家庭学習の時間が長いのに対し「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」が大きく下回っていました。主体的に学習に取り組むことに課題が見られました。

5年生「とちぎっ子学習状況調査」の結果

	国語	算数	理科
教科全体	◎	◎	—
知識技能	○	○	○
思考判断表現	◎	◎	—

国語と算数は県平均を大きく上回っています。特に、国語の「書くこと」は、記述式の問題で「指定された長さ」「2段落構成」「自分の考えを明確にして」等の条件を踏まえて文章を書く、県平均正答率の低い問題ですが、大変大きく上回っていました。理科は、県平均と同程度で、特に動植物の成長のしくみ等の「生命」領域の理解に課題が見られました。

【領域別】

国語	
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○
情報の扱い方にに関する事項	出題なし
我が国の言語文化に関する事項	○
話すこと・聞くこと	○
書くこと	☆
読むこと	○

算数	
数と計算	◎
図形	○
変化と関係	◎
データの活用	▽

理科	
エネルギーを柱とする領域	○
粒子を柱とする領域	○
生命を柱とする領域	▽
地球を柱とする領域	—

【児童質問紙から】

県平均と比較して肯定的な回答が上回っていたのが「クラスの友達と話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりできている」「学級活動の時間に友達同士で話し合っクラスの決まりなどをきめている(100%)」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」「授業では友達と話し合う活動をよく行っている」等でした。また、「授業で自分の考えを文書にまとめて書くことは難しい」は、「いいえ」の回答が県平均を大きく上回っていました。考えを伝え合っ学びを深めていることがわかります。家庭学習の時間が長いのに対し「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」が大きく下回っていました。課題となることは4年生と同様でした。

祇園小 学力向上改善プラン

上記の調査結果から見えてきた課題をもとに、全教職員で今後の学習指導の在り方を検討し、「学力向上改善プラン」を立案しました。今後、全学年でこのプランをもとに学習指導に取り組んでいきます。

1. 子どもの学ぶ意欲・学習習慣に関すること

- ① 児童自ら考えたいくなるようなめあてや学習計画の設定 ② 単元のゴールを児童と共有

2. 授業に関すること

- ① 自分の考えをもった上で友達と伝え合い考えを広げ深める学習活動
② 目的を明確にした話し合い活動

3. 家庭との連携に関すること

- ① 学年だよりの学習計画欄での学習に関する情報提供 ② 「家庭学習の記録」の活用